

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400600		
法人名	医療法人社団 聖和会		
事業所名	グループホーム グリーンライフ ヴィラ荒尾		
所在地	熊本県荒尾市本井手1480-26		
自己評価作成日	平成28年1月14日	評価結果市町村報告日	平成28年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成28年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造住宅の利点を活かし出来る限り家庭的な環境を大事にしています。入居者の生活も本人の意思を尊重し時間や決まりごとに縛られないようにしています。職員は目配り気配りを意識して、安心、安全な生活を支援するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中に位置する落ち着いた雰囲気のある事業所は、明るく開放的な作りである。普段の生活では、職員は見守り・気遣いを第一として入居者と接しており、家庭的な環境を大切にしている。地域住民の高齢化等による環境の変化も加わり、今後の地域との繋がりの継続が課題となりつつある中、入居者の生活力が低下しない様、ひとり一人の能力が発揮できるような支援を行っている。季節の行事だけでなく、入居者の誕生日には家族に声を掛け一緒に食事をする等、出かけるだけでなく訪ねて来て頂く関係作りにも力を入れている。縁側でソファに座り談笑する姿が見られる等、ゆったりとした穏やかな生活が送られている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末の会議時に1年の振り返りを話し合い、次年度の理念作りに活かすようにしている。	年間を通した理念の他に月目標も定め、職員が共有し実践に繋がれるよう、掲示しながら毎月会議で振り返りを行い、具体的な動きを確認しながらケアに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者がなじみの人や場所との関わりが持てるよう家族の協力を得ながら支援するようにしている。	入居者の高齢化だけでなく、地域住民の高齢化や地域環境の変化が進み、以前の様な活発な交流が難しくつつある中、地域の行事に参加する等の支援を行っている。	事業所で行っている季節や年間を通じての行事の開催時には、地域住民がより参加しやすい様、声掛けを行うことに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談者だけでなく、関わりのある地域の方々に介護や認知症の話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告したことに対して質問や意見を頂くことで気づきもらえることもあり、また地域の事情など教えていただきながら関わらせていただいている。	運営推進会議を活かし、頂いた気づきをケアに結びつけ、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や福祉課など用件で訪れても他の情報交換も行うようにしている。	情報交換等の機会を作る様にし、協力関係を築くことに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルは各職員確認するようにしている。施錠は夜間以外行っていない。	職員は身体拘束についての理解を深めるよう努めている。日常的に入居者は自由に過ごしており、玄関の施錠も無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて虐待についての勉強会でも共有している。		

グリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には職員体制や料金、ケアのあり方など包み隠さず伝え利用者、家族の考えや気持ちなどがうようにし、相互に理解・納得するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など日頃の様子など伝え、将来のことも踏まえ意見や要望を引き出すようにしている。	入居者・家族との繋がりを大切にし、面会時には家族の意見や要望を引き出すよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議前には懸案事項などスタッフの意見を引き出すようにし、会議の場だけでなく日頃からコミュニケーションをとるようにしている。	毎月の会議で職員の意見を聞く機会を設けているが、職員間のコミュニケーションも良く、日頃から意見・提案がしやすい体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人での研修、勉強会の機会を提供し職員各自が向上できるよう条件を整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の研修は参加できるようにしており、外部研修の機会があれば参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の連絡会を通して交流、勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の言葉または情報から本人が安心して生活できるように関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンや他のご家族との信頼関係づくりは常に心がけており、以前からの知人などとの関係づくりにもつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を決める段階で本人や家族と面談し、本人が必要としている支援、提供できる支援を考慮した上で利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること出来ないことの残存能力を見極めながら日常生活における作業や役割など支援しながら関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は蜜にとりながら協力していただきながら本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には本人の知人や親戚など声をかけていただくよう話し、地域の行事へ参加できるように支援したりしている。	家族や知人と馴染みの集会に出掛けたり、外泊も有る。職員付添いのもと地域の行事に参加したり等、入居者の意向により、馴染みの場の関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフと利用者の関係づくだけでなく、利用者同士のかかわりを大事にしている。		

グリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後は電話したり一度は会いに行き話しをするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方は基本的に本人の自由を尊重するようにしており、さりげなく支援するようにしている。	日頃の関わりから入居者の思いを把握することに努め、入居者それぞれの自由な日常生活を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを継続していただくよ身の回りの馴染みのものなど持ち込んでいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADLをはじめ心身の状態に応じて日常生活の役割など支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より本人のケアのあり方についてうかがうようにしておりホームでの暮らしに即した支援の仕方を介護計画に反映するようにしている。	入居者・家族の意向をもとに計画作成者がプランを作成している。3ヶ月ごとに見直しを行い、状態の変化により都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃のかかわりや支援を通して、職員間で協同、連携をとりながら介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

グリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も継続して馴染みの人との関わりが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは必要であれば電話連絡や面会に行き、連絡を密にしながら本人の医療支援に努めている。	かかりつけ医との連携体制は整っている。家族の協力を得ながらの通院支援だけでなく、医療機関からの定期的な往診もあり、適切な医療を受けられる様支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には日常の健康状態をみてもらいながら、必要であれば訪問看護利用や医療機関の看護職に相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時から医療機関には退院への働きかけは行い、入院中も面会時など情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時または入居後も家族との関りの中で意思確認を行い、本人や家族の意向に沿うようにしている。	重度化や終末期に関する方針は、入居時だけでなく状況の変化により家族とも話し合いを重ね、意向に沿うよう支援している。事業所では看取りを自然なことととらえ、医療機関との協力体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団とは合同で利用者の避難誘導まで行い、職員と協同で訓練している。	地域消防団の協力も毎回あり、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や口調だけでなく支援する側の感情のあり方まで考えてもらうようにしている。	言葉かけや対応について気になることは、都度職員間で声を掛けあいながらケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の気分や体調に合わせて本人のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの衣類や化粧品など身につけることができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しから食事の準備、片付けまで楽しみや役割、生活リハビリとして一緒に支援するようにしている。	食事の準備・片づけ時には家庭の中にいる様に入居者の参加が見られ、毎日の買い物には入居者共に出かける等、生活の一部となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は野菜を中心にし、本人の食べやすさに合わせて調理したり、必要に応じて栄養補助食品など使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯や義歯の状態をみながら声かけしたり、介助したり支援している。		

グリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方でもなるべくトイレでの排泄を支援し、本人の能力に応じてオムツはしを行っている。	自然な声掛け誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。トイレ内部にも手作りの手すりを設置し、入居者の動きを助ける工夫もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食には雑穀を混ぜたり、副食は野菜中心にし朝から乳製品など取り入れたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い、気分に合わせて声かけ、支援している。	毎日入居者の希望に応じた入浴の支援を行い、拒否の方には声掛けや対応を工夫し、2日に1回は入浴するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに休憩できるようしており、室温や湿度などをこまめに調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は医療機関に相談しながら必要最小限にさせていただくよう話し、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者はなるべく家事活動に楽しみながら参加していただけるよう支援し、本人の持っている力を奪わないよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	在宅時からの活動など家族の協力のもと出かけることができるよう支援している。	日常的に職員と食材の買い物に出かけたり、利用者の意向により戸外へ出かける時の支援を行っている。地域の行事参加への支援、家族との協力のもと外出等の支援も行っている。	

グリーンライフヴィラ荒尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の離れている姉妹や家族に会ったり電話したり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が暮らす環境はなるべく家庭的な環境になるよう配慮し、以前から使われていた馴染みの調度品など身の回りにあるよう支援している。	共用の空間には入居者が自由に過ごせるソファ等や場所があり、入居者同士の談笑が見られる。廊下やトイレ等の要所には手作りの手すりを設置し、自立した生活を送るための工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共有スペースで過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のアルバムや寝具類など使い慣れたものを使用していただくようにし、それぞれ自分の空間にさせていただくようにしている。	入居前の生活で馴染みのある物を持ち込み、使い慣れた環境で心地良く過ごせる配慮の中、家具の位置やベッド等は入居者それぞれの動きを考えたレイアウトにし、支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を意識した環境づくりを工夫している		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム グリーンライフ ヴィラ荒尾

作成日 平成 28年3月11日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		地域住民との協同	行事などへの地域住民の 参加	<ul style="list-style-type: none"> ・消防、防災訓練への住 民の参加を呼びかける ・行事への呼びかけを行 う 	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。